戦後日本の性と生殖をめぐる 康と権利の問題を解き明かす

人工妊娠中絶はおろか避妊すら禁じられた戦前

の

「産めよ殖やせよ」政策が一転した、敗戦直後。 民間団体として「家族計画運動」を担ったのは、

日本家族計画普及会(のちに日本家族計画協会)であった。

官学民(行政・専門家・民間団体)の協力体制を

絶妙なバランスでつくりあげ、それを最大限に活用して、

草の根の受胎調節実地指導員(助産師や保健師)と

手を携え、企業へ、労働組合へ、農村へ、

炭鉱へ、家庭へとダイナミックな運動を展開した。

リプロダクティブ・ヘルス/ライツの歴史を跡づけるうえで

機関紙『家族計画』は、世界的にも特異なあゆみをたどった、

実態調査にみる

対象家庭の分析

欠かせない基本資料である。

揃定価●270、000円+税(税込297、000円)

配本 全3回配本

推薦◎阿藤誠・上野千鶴子・荻野美穂・草野いづみ・藤野豊(五+音順)

B4判・上製・総約2900ページ

事項 結婚相談(医學的原

日向の問題さ

子供が出来たら食えぬが 活《喘》人 器具を買う金はない 改正法 響 活動の

磯地なるか 優生保護法の一部改正案

受胎 調 グンと伸びた実施率 節 0 実

態

提案者の見解をきく

本国会に提出さる

談所) 優生保護指導員 (産婆、看護婦) 社会保険

国民健康保険出張所及び診療所、民生委員、地域

婦人会、医師 (病院、診療所) 塞初師

廿一日 堤郷

サンガー ·夫人日程

てよりな オミヤゲ話

日本家族計画連盟

いよいよ発足す

ても 貴 会の運

本家族計画

刊 て

第1号

毎月20日発行 (年会費 ₹ 300 〒共) 東京都中央区京橋2ノ1 (公衆保健館内) 鐵 話 (56) 6 8 2 6 - 6 9 7 5 振 裝 東 京 1 1 5 4 6 8 番 日本家族計画普及会 辦集兼発行人圖井長次郎

想される国内運動の活潑化 画家 八来朝

厚生大臣との 懇談

北岡寿逸、館

世界家族計画連盟とは 三原僧一、寺尾琢懸

ン(イギリス)

ルーリー・イエー Control Revei に帰り「全国連児調節連盟」を 第一次大戦終了後、第三回 第一次大戦終了後、第三回 第一次大戦終了後、第三回 第二次大戦終了後、第三回 小伝

デー (Ma

夫

X 昭和29年4月15日

皆さま方の 創業以来50年 堅実に奉仕の 続けてまいりました



刊行にあたって

的課題の解決手段ではないという信念のもと、 庭に避妊具と料金箱を回すというような実際的なものであった。 だとも訴えるものだった。避妊具を提示した講習会を開くだけでなく、 節運動の流れを汲みつつ、国立公衆衛生院院長古屋芳雄、医者で優生保護法 に関し日本政府に対して働きかける際は、連盟が前面に立ち、 はゆるがなかった。「家族計画は母子保健の一環」として女性や妊産婦の健康: て農村や炭鉱でも実績を積んでいった。 連盟と密接に連携しながらひとびとが「いつ、何人産むか」を主体的に決め 本家族計画普及会はいわば新参の国井長次郎が独自につくった民間団体で、 成立に寄与した国会議員でもある太田典礼なども関わっていた。 運動家マーガレット・サンガーが日本家族計画連盟(以下連盟)設立を祝し来 現場では保健師や助産師とタッグを組み、 その運動手法は、行政と協力しながら、企業や労働組合に積極的に働きか 人口抑制政策推進が落ち着いたあとでも、 日本家族計画普及会(のちに日本家族計画協会に改称)は、 職場や家庭に入って避妊の方法を具体的に伝え、 「連盟」は、 当事者に実用的な支援や相談をおこなった。 家族計画運動を展開した。 は広報を一手に担った。 加藤シヅエや馬島僴など戦前からの産児調 家族計画は人口政策という国家 全国各地域への浸透もおこな 女性の健康を守るという目的 七〇年代八〇年代に起き 男性にこそ理解が必要 世界的な産児調節 日本家族計画 いっぽう日 法整備 関連年表

るということを啓発する、

した年に発足した。

子保健の貴重な情報源として大きな役割を果たした。戦後日本のリプロダクテ ィブ・ヘルス/ライツの歴史をたどるうえで必須の重要資料を復刻する。 反対の世論拡大に貢献したことは見逃せない 機関紙『家族計画』は発刊以来、 毎月一度も欠けることなく、 家族計画や母

協会の機関紙

『家族計画』

乳幼児の健康について、

た優生保護法「改正」の動きに対しても、連盟と協会が二人三脚で中絶禁止

(六花出版編集部)

思春期外来を開設。若年層の性の悩みの相談にのる に損害賠償を求める判決相次ぐ前年以来、高裁等で優生保護法による強制不妊手術に対し、 加藤シヅエ会長の死去に伴い連盟解散。 ある場合に中絶を許可) などを加える改定案が国会に提出される優生保護法の中絶要件から経済的事由を削除し、胎児条項(胎: 日本家族計画普及会、改称。日本家族計画協会に 条件付きで人工妊娠中絶を合法化。遺伝性疾患を優生保護法成立。「不良な子孫の出生の防止」と 有害避妊器具取締規訓 「共稼ぎ婦人の健康生活講座」を開催 事業部で岡本ゴム工業と提携して避妊具の製造販売を開始 日本家族計画普及会創立。機関紙『家族計画』創刊 母子保護法制定。 一般社団法人に移行 機関紙名「家族計画」を「家族と健康」に改題 優生保護法の中絶要件から経済的事由を削除す **「経口避妊薬の許可は是か非か」を 『家族計画』 紙上でアンケ** 人口政策確立要綱(産めよ殖やせよ政策) 家族計画』紙上で母性保健基本法を求める大キャンペーン開始 サンガー初来日。 産児調節運動への弾圧厳し 第一回家族計画普及全国大会開催。 -純を認める優生条項を削除。名称も母体保護法へ採の出生防止」に関わる条文および遺伝性疾患・精神 継続審議 日本家族計画連盟設立 創立 (本部ロンドン) 的理由が入る この年のうちに 参院で審議未了 活動は一部日本家族計画協会に委譲 くなる を理由とした中絶と「母性の生命健康 る件につき国会で議論される 厚生省 廃案 0社突破を見込む 除斥期間を認めず国 と不妊手術を許可感の保護」が目的。 に重度の障害が

第1号 1954年4月20日

指導組織の確立が必要

受胎調節百問百答家族計画シリーズ(五)

予算は三百七十万円

振舞口壓飛引九九〇六 東京都中央区八萬州六ノ七 東京都中央区八萬州六ノ七

家族計画には百三万円

能力回復出産後の妊娠

家族計画は先ず避妊から!

ちなきたべたべ、兄さんが

こどもの日

家族計画 本鋼管の

にめざい

成果

新

活

運動を見

3

いつも話題をの日本週報

中絶と不妊手

が話題

◇三 山 扫

安計更から 家族計画には効率の高いコンドームをお使い下さい。 東洋一の設備を誇る岡本ゴムの製品をお撰び下さい。

第35号 1957年2月20日

策はガラパゴス的に特異である。その謎を解くエビデンスがここにある。 中絶を優先したのか?」と外国のジェンダー研究者に問われるほど、 日本の女性は闘う必要がなかった。だが、

荻野美穂◎元大阪大学·同志社大学教授

家族計画はなぜ母子保健の基礎が

38年度を目標に母子保健法の制定へ

大きな変化が生じたかが手に取るように見えてくる

生殖をコントロ

運動の中核を担った組織であり、

的課題として掲げられた時代があった。日本家族計画普及会(現・日本家族計画協会)はその

出生率を低下させるかが国家 かつては避妊を基本とする家

見 在は少子化対策の必要性が強く叫ばれる日本だが、

敗戦後の日本に外地から六〇〇万人が引き揚げた日本では、出産抑制が喫緊の課題だっ その後、「家族計画」は子沢山に苦しむ女性たちに歓迎されて、急速に普及した。世界的 日本のSRHR政 (うえの・ちづこ) 優生保護法改訂 知識の普及が先決 環境 参議院自民党政策審議会で

*一回 家族計画普及全国大学

受容にも日本のフェミニストは消極的だったし、認可にも時間がかかった。「なぜ避妊よ に第二波フェミニズムが起こり、「中絶の自由」を求めて各国の女性たちが権力と闘った 性と生殖 そのために避妊法の普及は遅れ、ピルの の近現代史を語る上で必須の資料

機関紙『家族計画』の紙面を追っていくと、第二次世界 生活と心の中に家族計画を

えで本紙は欠くことのできない第一級の資料であり、その復刻が実現したことを喜ぶとと 害をもつ子の誕生をめぐってどのような議論が展開されてきたのか、そして家族計画や それはどんな理由によるのか、人工妊娠中絶や優生保護法、ピル、あるいは母子保健や障 大戦直後から高度経済成長期をへて現在にいたる時期に、日本人の生殖行動にはいかに 国家の人口政策の移り変わりとともに、子どもや家族をめぐる人々の意識はどのよう 生殖の一番の当事者である女性たちはこの間の動きにどの ルするための手段として何が中心的に用いられてきたのか、 さまざまな角度から性と生殖の日本近現代史を語るう (おぎの・みほ 愛媛県吉田町奥南地区の活動

れない施策社

属国唱の総合 個子信息所政

もに、今後の研究に存分に活用されていくことを期待してやまない。

ように関わりあってきたのか

医療の専門家ばかりでなく、

第一級資料

人口·公衆衛生·

エ

ン

ダ

問題研究

阿藤誠 ◎国立社会保障·人口問題研究所名誉所長

自治体・企業・労組における普及活動、家族計画運動の指導層のオピニオン・実地指導員 同時に発刊された月刊紙『家族計画』は、 主導の家族計画普及体制を構築し、避妊の普及・中絶の減少に貢献した。普及会設立と の設立により状況は一変した。普及会の創設者・国井長次郎は、行政とも協力しつつ民間 きた。その意味で本復刻版は、日本の家族計画の普及過程を記録した第一級資料であり、 **単**なう中絶利用の激増によるものであった。家族計画 (避妊) は政府の消極姿勢もあ後、世界を驚かせた日本の急激な出生率低下は、主として優生保護法改正にとも 人口・公衆衛生・ジェンダーなどの研究者にとって益するところ大であろう。 って広がりを欠いていたが、一九五四年の日本家族計画連盟の成立・日本家族計画普及会 さらに家族計画・中絶・人口などに関連した国内・国外の動きを克明に伝え続けて 普及会自身が関わった家族計画普及全国大会、

企業体における家族計画の展望

本年に入り一段と進捗

空も下界も定員過剰

1900

岡本ゴムを視察。左より3人目から近泰男・国井 長次郎・加藤シヅエ・山口シズエ(1954年7月)

日本

の S R

R

(セクブ・

ヘルス&ライツ)はアル・リプロダク)は

ガラパゴスか?

上野千鶴子。東京大学名誉教授・認定NPO法人ウィメンズアクションネットワーク(WAN)

天国」という不名誉な名前をもらった。「産めよ殖やせよ」の戦時下のかけ声に代わって、

の残る日本で、優生保護法の「経済的理由」の拡大解釈によって、旅言国」とに単名(ユージー)

日本は「中絶

族計画」とは戦後の産児制限の婉曲語法である。明治期に成立した刑法堕胎罪

(1956年11月20日)

日本社会の優生思想を検証する

膝野豊 ●元敬和学園大学教員

であるという優生思想に基づく認識があった。 障害児を産ませないという側面もあったことを忘れてはならないだろ 面を表している。 う。その背景には、 こなうということではないだろうか。 たくしたちが「家族計画」という言葉からまず連想するのは、女 家族にとっても、 しかし、それと表裏一体の関係で、「家族計画」には、 優生保護法により普及させられた、 社会にとっても、 たしかにそれは「家族計画」の そして国家にとっても不幸 障害児を産む

おこなった国家の責任はもちろん、 にかなった復刻である。 責任も問われている。その意味で、 を示す記事が多く掲載されている。優生保護法により国家がおこなっ た強制不妊手術の過ちが法廷でも指摘されている今、 日本家族計画普及会が発行していた『家族計画』には、そうした認識 六花出版による『家族計画』は時宜 過ちを支えてきたわたくしたちの そうした過ちを (ふじの・ゆたか)







国家ではな 「家族計画」 一を追求 く個人 た め の

その焦点「第十四条」

収路に立つ優生保護法

草野いづみ。帝京大学教授

海外の事例なども紹介され、その時代の状況がわかる。 れた。紙面には各地から寄せられた避妊や妊娠に関するさまざまな悩み、 どの企業体、労組、農村部等に指導員が出向き、全国的な運動が展開さ を展開していく意気込みとエネルギー は戦後の一九五四年に創刊された。発刊当初の紙面からは、新たに運動 口増強政策の下で弾圧された。日本家族計画普及会の機関紙『家族計画』 敗戦後の日本には、 正時代マーガレット・サンガー 国家的には過剰人口の抑制という課題があったが の来日を機に人びとの注目を集 が伝わってくる。 炭鉱や製鉄所な

国家の匂いは入らないものである」(第4号)と主張した。 なっている……あくまで個人的なもの、 日本家族計画普及会を創設した国井長次郎は「家族計画というのは、 人間らしく、 ゆたかに、文化的に生きたいという希いが基礎に 人間的なものであってそこには

いくと、「人工妊娠中絶」「農村婦人」「働く母親」「不妊」「若者の結婚観」 とができる。読み通すのが楽しみである。 画運動は、国井の信念にもとづき広がっていった。年を追って紙面を見て |経口避妊薬」「女の人権と性」など、その時代ごとの新たな課題を知るこ 当初は激増する危険な中絶をなくすことに力点を置いた民間の家族計 (くさの・いづみ)

とうとえるか 本会主催座談会

K I N SARY

es Associatio

紫株式会社 計画普及会 公衆保健館内

0

社

経営陣のゴ

母親

B3

主唱

勤労者の自己防衛として

談会出

計

族

口問題か母体保護か

運動は拒否せよ単独切離しの

超37号

第 30 号

1956年9月2日



第37号 1957年4月20日

肩身がせまい姙娠

出産も

生保護法関係資料集成

第2期=市民運動編 全8巻優生保護法関係資料集成

▶編・解説 = 松原洋子

人工妊娠中絶を可能にした優生保護法は

根拠ともなった。

優生保護法が実際にどのような人びとに

なされた人に対しての不妊手術を強制する がある人や子どもを育てる能力がないとみ 戦前からの優生思想をさらに強化し、障害

障害者たち、生命尊重派たちが繰り広げた府の「改正」の動きに対して、女性たち、

障害を理由とした胎児中絶可能という、

政

◆編・解説=荻野美穂

一九七〇~

八〇年代、

実質的中絶禁止と

運動のありようを活写する資料約900点

を編集復刻ー

200,0

00円+税

A4判・上製・総2、800ページ

(税込220、000円)

点を編集復刻

A4判・上製・総2、100ページ

らかにする政府資料、各自治体資料322 どのように運用されたのか、その実態を明

Ė から島へ家族は進む

計画にしょってふ」記や目記を通じてうかがつて五人のサムライ・指導員

自からモデルになつて

日立造船·因島工場(続

残された赤ちやん

ある指導員の日記より

なさい。簡単で

とうかおけが

家

族

生活 《 喘 / 人 /

不明 計 四一八名 新歌しないるの一四七名は 夫女に後のの一四七名は 大女に後のの一四七名は 大女に後頭係な 大が出来ぬが一 かんれいまながったが出来ぬが

次いで、受給飼館を希望する間

指導の効

姙娠

子供が出来たら食えぬが

器具を買う金はない

元 八次

いというのか不明)

を を を 変 41 97 (22.2) 41 38 (8.3) 5.7

1958年2月2日

(3)

昭和29年12月20日

調節大歡迎

四

受講者は懸命

第9号 1954年12月20日

月

◇指導を開始◇



用側は退クツなものです。

型でいる。 セニ、カロロの人

本年の政府の家族計画の政党をは内一種と上りでいる。 必要経費一億六千九百万円必要経費一億六千九百万円

出産扶助 生活保護法と

普及対象婦人数は九三万人

困窮者と政府の対策

が移場が合せ会 一カ月の反省

10



ども労働問題資料集成

戦後民主主義が生んだ優生思想

優生保護法の史的検証

◆編・解説=藤野豊・石原剛志

児童の労働への明確な基準が決定したが、敗戦後、GHQにより公娼が廃止され、 会の土壌は容易に変化しなかった。 生活困窮が直接人身売買に結びつく日本社

が存在していた。「生まれては困る子ども」を社会において48年間、優生思想を体現した法律

「公共の福祉」の名のもとに、戦後民主主義

隷的労働を強いられた女性や子どもの実態 を明らかにする貴重な歴史的資料として復 高度経済成長前夜、日本国憲法のもと奴

●体裁─

A5判/並製/304ページ

1、800円+税(税込1、980円)

2021年4月刊 ISBN978-4-86617-132-

●定価-

峻別した優生保護法の歴史を解読す

産ませず、「子どもを持ってはいけない人」

A 4判 (第7巻~第10巻)

戦後民主主義が 生んだ優生思想

優生保護法の史的検証

藤野 豊

上製/総約4、000ページ

196、000円+税

(税込215、600円) 逸見勝亮・角田由紀子・

岩田正美・増山均

2013年12月刊 第1回配本 -4-905421-41-2 (税込70、400円)3年12月刊 本体64、000円+税

第2回配本

第2回配本(第4~6巻) 2020年5月刊 本体 ISBN978-4-86617-086-2

(税込82、500円):75、000円+税

2021年5月刊 本: 第2回配本(第4~6巻)

ISBN978-4-86617-120-3(税込82、500円)税

ISBN978-4-86617-116-6 第1回配本 (第1~3巻)

本体7

藤井克徳・森岡正博・米津知子

植あづみ・堂本暁子・

新里宏二・

有紀子・田嶋陽子・立岩真也・柘 子・江原由美子・加藤秀一・齋藤 芦野由利子・飯田祐子・上野千鶴

ISBN978-4-86617-082-4(稅込82、500円)税第1回配本(第1~3巻)

岡田靖雄・藤野豊・市野川容孝

(税込165、000円)

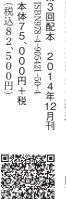
150、000円+税

2、700円+税

第3回配本 2014年12月刊 ISBN978-4-905421-46-7(税込60

ISBN978-4-86617-124-1 回来 本体50、000円+税

(税込55、000円)





---炭鉱合理化政策と失業 「**黒い羽根」の戦後史** ◆著=藤野豊 合理化政策とエネルギー

法」をともかく 悲惨な生活を強いられた炭鉱労働者とその家族 に対して、 oかくも成立させるまでの15年間を踏世論を動かし「炭鉱離職者臨時措置 革命によって失業し

2、800円+税 (税込3、080円) 2019年9月刊 ISBN978-4-86617-079

●定価-

A 5 判

上製/360ページ





復刻版

日本家族計画協会機関紙

THE FAMILY PLANNING

全9巻

本体9万円+税 (税込99,000円) ISBN978-4-86617-214-9

2023年6月刊

1962年~64年 第3巻

第2回配本

第1回配本

2023年11月刊 本体9万円+税 (税込99,000円)

ISBN978-4-86617-218-7

第3回配本

2024年5月刊 本体9万円+税 (税込99,000円) ISBN978-4-86617-222-4

1965年1月~68年6月 第4巻

第1巻 1954年4月~58年6月

│ 1958年7月~61年12月

第5巻 1968年7月~71年12月

1972年~74年 第6巻

第7巻 1975年~77年

第8巻 │1978年~80年

第9巻 | 1981年~83年

推薦(五十音順 藤野豊 荻野美穂 藤誠

270 (全3回配本) 000 再 + 税 (税込297、000円

揃定価

B 4 判 上製・総約2、900ページ

○ キーワード

#日本近現代史



